



①4月に行われた「えほんワールド」。思わず立ち上がってしまう子も。②絵本まつりの一コマ。赤いスカーフをしているのは「ほんのむし」の皆さん。③ボランティアスタッフの読み聞かせに子どもだけでなく、大人も見入ってしまう。④上富のつくし文庫で行われた読み聞かせ。上富地区は図書館が遠いため、このつくし文庫は子どもたちにとって大切な場所。⑤ブックスタートボランティアの3人。読み聞かせだけでなく、子どもたちとも触れ合います。



おはなしサークル「かにかにこそこそ」のボランティアスタッフが、あずさ保育園の子どもたちに、読み聞かせをする様子。読み聞かせている由水さんは、中央図書館ができた当初からボランティアとして活動している。

interview

読書支援ボランティアの声

いい本をもっと紹介したい

子どもが3歳のとき、もっと上手に読み聞かせをしたいと考え、ボランティア養成講座を受講したことがきっかけでボランティアを始めました。いい本を紹介して、子どもたちが喜んでその本を読んでくれたとき、とても嬉しいです。図書館とボランティアがお互いに工夫、サポートをし合い、地域の子どもの喜びや笑顔に繋がっていきたいです。

まゆずみ 佳代子さん

ほんのむし、空風流の代表。2人の子どもは共に成人に。読書活動支援以外に、地域の遺跡発掘調査にも楽しみながら協力している。

町の読書支援ボランティア



図書館事業に協力している「ぐりぐらボランティア」「スイミーおはなし会」「ブックスタート・ブックスタートプラスボランティア」「本につなげる館内展示ボランティア」のほか、図書館や小学校などでお話しを届けている「おはなしサークルかにかにこそこそ」、学校で朝の読み聞かせをしている「空風流（藤久保小）」「ミッケ（唐沢小）」「モモ（竹間沢小）」「上富小読み聞かせボランティア」「よむよむポケット（三芳小）」、子ども読書環境サポート隊「ほんのむし」といった多くのボランティアが活動し、子どもたちに本の魅力を伝えています。

の紹介や、どのように読み聞かせをしたらよいかなどのコツをアドバイスしています。

このように、読書支援ボランティアスタッフが、読書支援の事業、子どもたちへの読書支援サポートはできません。子どもたちのことを大切に思う地域のボランティアによって、町の子ども読書支援事業は支えられています。



↑中央図書館に入るとすぐ、かわいいキャラクターが出迎えてくれます。実はこの展示物、ボランティアスタッフ鈴木さんの手作りです。

02 地域を支える読書支援ボランティア

子どもたちに本の魅力を届けるため、多くの住民がボランティアスタッフとして活動しています。どのような活動が行われ、子どもたちの笑顔につながっているのかをご紹介します。

子どもたちに読書の楽しさを伝えるため、ボランティアで読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなどを行っている人たちがご存知ですか。その多くは、上手に我が子に読み聞かせをしたい、という思いがきっかけで活動を始めています。やがて、「ほかの子どもにも、本の素晴らしさを伝えたい。子どもたちの喜ぶ顔が見たい」という思いが高まり、育児を終えても、ボランティア活動をしているのです。

三芳町にはこのような「読書支援ボランティア」が大勢います。図書館や学校図書館、保育所、保育園へ出向くなどして、町の子どもの読書活動推進に大きな役割を果たしています。平成15年には、町ぐるみで子どもを本好きに！という思いと、地域の読書環境向上を願う思いから、子どもの読書環境サポート隊「ほんのむし」が誕生。読書支援ボランティア同士のネットワークとして活動し、質の高い活動をめざして勉強会や意見交換会を行っています。

さらに図書館では、ボランティア養成のために講習会を定期的に開き、子どもたちにすすめたい本の紹介や、どのように読み聞かせをしたらよいかなどのコツをアドバイスしています。